

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成22年度農作物病害虫発生予察情報について

平成22年度農作物病害虫発生予報第11号を発表したので送付します。

平成22年度農作物病害虫発生予報第11号

平成23年 1月28日
徳 島 県

.野菜

冬春トマト

疫病

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が11.7%、発病度が 0.3)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分に換気を行なう。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行なう。

灰色かび病

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が28.3%、発病度が 3.0)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20 位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が26.1%, 発病度が1.3)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が45.3%, 寄生葉率が5.5%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率は50.0%でやや高いものの、発病葉率は1.0%である(平年同時期は未発生)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%, 発病葉率が7.0%であり、平年(72.0%, 13.6%)と比べてやや少なめの発生である。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25度位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

灰色かび病

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.0%、発病果率が0.1%)。
- (2)1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が20℃程度の低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2)朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3)発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.0%、発病葉率が0.1%)。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

オンシツコナジラミ

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月後半の巡回調査では、発生圃場率は50.0%で平年(26.0%)と比べてやや高いが、寄生葉率は0.7%であり、ほぼ平年(2.6%)並の発生である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも充分に付着するように丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が6.0%、寄生葉率が0.6%)。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率は66.7%であり、平年(20.0%)と比べて高いが、寄生葉率は3.7%、被害果率は0.2%であり、ほぼ平年(1.7%, 0.0%)並の発生である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

冬春キュウリ

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年より多く、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、発病葉率が21.8%であり、平年(33.5%, 5.1%)と比べて発生が多い。

(2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

(1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)罹病葉は圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。

(3)同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

灰色かび病

1)予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年は発生圃場率が4.0%、発病果率が0.4%)。

(2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

(1)気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。

(3)発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。

(4)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(5)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

べと病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病葉率が0.2%であり、平年(40.5%, 9.9%)と比べて発生が少ない。

(2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

(3)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行なう。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.0%、寄生葉率が0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

オンシツコナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.0%、寄生葉率が0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、寄生葉率が0.3%であり、ほぼ平年(4.0%、0.1%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

冬レタス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、発病株率が0.3%であり、平年(15.3%、0.5%)並の発生である。

(2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 過湿にならないようトンネル内の換気や圃場の排水に努める。特に収穫期には株元が繁茂して過湿になり、発生しやすくなるので注意する。

(2) 発病株は伝染源になるので、できるだけ早く除去する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

菌核病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が26.0%、発病株率が1.5%)。

(2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病株を放置しておくことで多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が23.6%, 発病度が1.2)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 品種は、本病レース1～7に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 葉が繁茂すると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 春先の病勢の伸展を抑制するため、薬剤は予防的に用いる。
- (4) 薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているため、速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月前半の巡回調査では、発生圃場率が45.5%, 寄生程度指数が0.9であり、ほぼ平年(26.3%, 1.5)並の発生である。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.6%, 発病果率が0.1%)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃程度の低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.9%、発病葉率が0.2%、発病果率が0.4%)。
- (2) 1月29日発表の1ヶ月予報では、気温の日時変動が大きいものの、晴れの日が多く、平均気温は高く、日照時間は平年並～多いと見込まれている。

3)防除上注意すべき事項

- (1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)古葉を早めに除去し、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3)罹病した果実や茎葉などは圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

- (1)1月後半の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、寄生株率が8.3%であり、平年(12.5%、1.2%)と比べて発生が多い。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生株率が7.7%、寄生葉率が4.4%であり、ほぼ平年(27.9%、6.2%、3.4%)並の発生である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

.その他

- 1.朝夕の冷え込みが厳しくなる時期ですので、施設内の換気は、内部温度が急激に下がらないよう適切に行わない、夕方は早めに閉め込んで下さい。また、暖房機の点検を励行し、作目に応じた適正な温度管理を行なって下さい。
- 2.薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
テレフォンサービス：0883 (26) 1199
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujoso/>

病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。